

小松町への中学校誘致

明治五年（一八七二）、政府は学制を

公布し、国民皆学（かいがく）の理念を打ち出した。これに基づき明治初期段階で小学校の設置が積極的に推進されたが、中学校の設置はなかなか進まなかった。明治

形づくるものであった。

明治二十六年石川県尋常中学校が金沢で開校した。明治三十一年九月、石川県第四尋常中学校を能美郡小松町に設置することが決定した。それ以前に

小松中学校と改称された。

明治二十四年、ようやく女子の中等教育機関として高等女学校が法的に認められた。小学校卒業後もより高度な普通教育を求める女子が増加し、女子教育の充実が要請されるようになった。

明治四十四年四月、能美郡立実科高等女学校が小松町小馬出町の能美郡旧公会堂を仮校舎に開校した。大正十二年



小松中学校正門(昭和4年頃)（『小松高等学校百年史』より）小松城二の丸跡にあり、明治32年(1899)に創立された

十九年に公布された中学校令は、修業年限二年の高等中学校と五年の尋常中学校にわけ、近代中等教育制度の骨格を

能美郡串村・今江村、江沼郡大聖寺町・動橋村（いぶらぎばし）などが誘致の声をあげ、小松町と激しい争いを展開していた。しかし、人口一万三三〇〇人余の県下第二の都市小松町が、周辺二〇か村の同意を得て具申書を提出し、校地の無償提供を申し出て地元を設置することに成功した。校舎の建築が明治三十二年四月の開校に合わなかったため、小馬出町の小松町役場の一部を仮校舎として開校、同年九月三十日校舎が落成し、翌十月一日に引き渡しを受け移転を完了した。明治四十年に石川県立



県立小松高等女学校(正面玄関)(小松市立博物館提供) 昭和24年(1949)市立丸之内中学校校舎となる

(二九二三) 郡制が廃止となったため石川県に移管され、石川県立小松高等女学校と改称された。

明治後期以降女子実業教育振興策として各地に裁縫学校が設置された。大正十四年六月に開校した小松実科高等女学校は、良妻賢母の家庭の主婦として裁縫技術の習得や、職業婦人として勤務できる教養、技能を身につけることを目的としていた。その後小松町立実科高等女学校、小松市立高等女学

校等名称が変わっている。小松市立高等女学校の歴史は校種の変更や改称を繰り返した。

明治二十九年四月、石川県農学校(後・県立松任農学校、県立松任農業高等学校、現・県立翠星高等学校)は、羽咋郡東土田村字火打谷串田野(現・羽咋郡志賀町火打谷)から能美郡小松町小馬出町(現・小松市小馬出町)に移転し、公会堂を校舎とした。明治三十五年三月、石川郡松任町馬場町(現・白山市馬場町)に校舎が落成し移転した。(橋本正準)

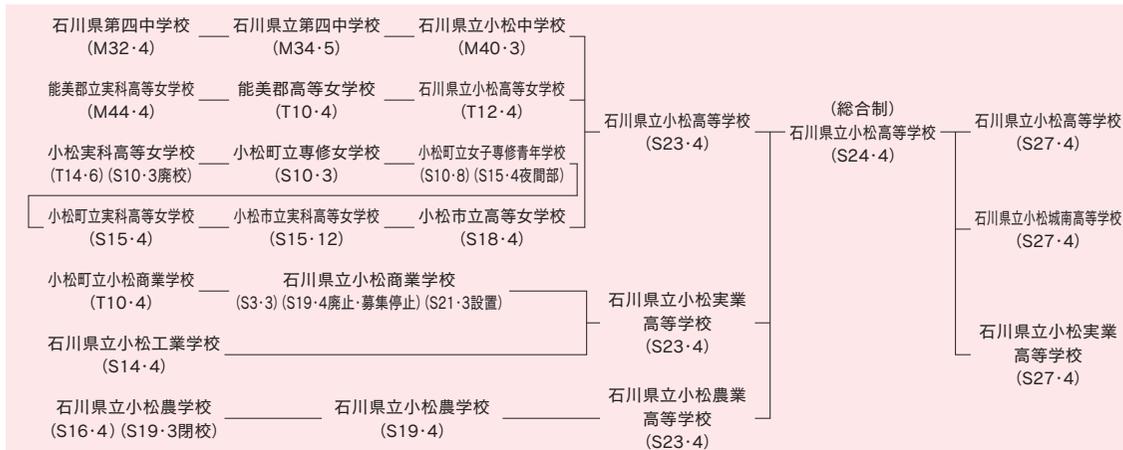


小松町立女子専修青年学校における作法の時間(『小松高等学校百年史』より) 昭和14年(1939)頃



小松町立小松商業学校の仮校舎(『石川県立小松商業高等学校創立八十周年記念誌』より) 大正9年(1920)2月、小松町会は、商業学校の設立を決定し、大正10年4月、小松町公会堂を仮校舎に授業を開始した。

小松の中等学校沿革略史



注 『小松高等学校百年史』『石川県立小松商業高等学校創立八十周年記念誌』『小松工業同窓会 創立四十周年記念 寄稿集 思い出のつづり』等により作成